

「AOYAMA GREEN FESTIVAL」報告

北峯有紗（2011年 Flex MBA 卒業）

設立5年目を迎えた ABS ALUMNI（同窓会）は、今年も9月23日（祝）青山学院大学同窓会「AOYAMA GREEN FESTIVAL」に参加いたしました。

今年は、「ソーシャル」をテーマに、第一部として公開講座、第二部としてパネルディスカッションを開催いたしました。第一部53名、第二部40名の方にご参加いただき、卒業生だけでなく、在校生も交えて、大変活発な意見交換が繰り広げられました。ここに当日の様子を少しご紹介いたします。

第一部では、「ソーシャルベンチャーの意義と展望」をテーマとし、国際マネジメント研究科の長谷川博和特任教授、（前）公立はこだて未来大学教授の鈴木克也様からご講演を頂きました。両先生からは、今注目を集めているソーシャルビジネス、ソーシャルベンチャーの意義、条件、課題などについて、それぞれご教授いただきました。



<長谷川先生>

- ・ 震災後、人々の価値観の変化によって、これまでのビジネスモデルには限界が出てきており、ソーシャルビジネスの重要性が高まっている。
- ・ ソーシャルビジネスの定義は、大きく3つ。

NPOでもないボランティアでもない拡大再生産できる新しいモデルである

「利他」に基づくビジネスであり、世の中に役立つという喜び以外の報酬はない
ソーシャルビジネスには“事業性”“社会性”に加えて、“革新性”が必要である

- ・ 元来、ソーシャルビジネス的な思想がある日本では、ソーシャルビジネスが育つ土壤はあると考えている。

<鈴木先生>

- ・ 大震災以降、「市場の失敗」「政府の失敗」を埋める“第三の道”として、ソーシャルベンチャーの意義が重要になっている。
- ・ ソーシャルベンチャーとは、身の回りに存在する社会的課題をビジネスの手法で解決すること。その成功条件には4つの要素がある。

マーケットの新しい切り口、新しいマネジメントスタイル、社会起業家の役割
ソーシャルイノベーション

- ・ 社会的な問題解決をビジネスで行おうとすることは相当な覚悟が必要である。

次に、第一部のご講演内容を受け、第二部パネルディスカッションへと場を移し、議論を深め

ました。テーマ「大震災後の企業の価値変化とソーシャルベンチャー」として、第一部から引き続き鈴木先生に加え、ABS 卒業生である村田佳生さん（1992 年卒業、株式会社野村総合研究所 執行役員・ABS Alumni 副会長）、河合桂子さん（2006 年卒業、富士ゼロックス(株)CSR 部）、横治明彦さん（2011 年卒業、オリックス(株)エコ・プロジェクト推進部）の3名の方々にもパネリストとしてご登壇いただきました。



Q. 3月の大震災後に企業、消費者のマインドに変化はあったか？

- ・ 予想以上に企業の危機対応力が発揮された。
- ・ 企業、個人の視点でも社会や地域に貢献したいという重いが大きくなり、CSR の意義が単なる企業 PR ではなくなってきた。
- ・ 震災は社会的な変化をもたらした。
- ・ ビジネスとして推進していくには、リーダーの決断にかかっている。

Q. 「ソーシャル」を推進していくにはどうすれば良いか？

- ・ ソーシャルビジネスは潜在性が高い、シーズ（種）を作って目に見える形にしていく必要がある。世の中は先駆的事例を求めている。
- ・ 海外では CSR 意識高く、海外の事例を輸入して日本を変えていきたい。
- ・ 機会の発掘、自らの体験をビジネスに落とすということが出来る人材が必要。社会をデザインできる人材が求められている。

当日の参加者の方からも「ソーシャルビジネスコンテストをやってみてはどうか」など活発な意見が飛び交いました。そして、最後に高橋研究科長より、ABS の今後の重点政策は、「グローバル」「アントレプレナー」「ソーシャル」であると考えている、というお話もありました。

また、このパネルディスカッションの後、懇親会の間では、ビールを片手に先生方、卒業生、在校生で懇親を深め、さらに熱い議論が繰り広げられておりました…。

震災を期に人々の価値観に変化が生まれ、「ソーシャル」の重要性がますます高まっている今、ABS 卒業生として世の中の課題に対して何ができるのか、そして、今後どのように行動し、貢献していくべきかについて、深く考えさせられる一日となりました。

以上、ALUMNI 執行部を代表して、2011 年「AOYAMA GREEN FESTIVAL」の報告をさせていただきます。卒業生、在校生の皆さま、来年の「AOYAMA GREEN FESTIVAL」にも是非ご参加いただければと思います。

